

# 第2回八代海域調査委員会議事要旨

---

## 【1】開催日時

平成 13 年7月 11 日(水) 14:00~17:00

## 【2】開催場所

KKRホテル熊本(2F 城彩の間)

## 【3】出席委員(敬称略)

委員長 弘田禮一郎 熊本大学名誉教授

委員

(学識経験者)

大本 照憲	熊本大学工学部助教授
門脇 秀策	鹿児島大学水産学部教授
楠田 哲也	九州大学大学院工学研究院教授
篠原 亮太	熊本県立大学環境共生学部教授
滝川 清	熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授
堤 裕昭	熊本県立大学環境共生学部教授
逸見 泰久	熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講師

(敬称略 50 音順)

(漁業者代表)

井手 正徳	熊本県漁業協同組合連合会代表理事会長
(代理)吉岡博秋	総務部長
沖崎 義明	熊本県漁業協同組合連合会第六部会長
福田 諭	熊本県漁業協同組合連合会第四部会長
松本 忠明	熊本県漁業協同組合連合会第五部会長
宮本 勝	熊本県漁業協同組合連合会第三部会長
森枝 哲男	鹿児島県東町漁業協同組合代表理事組合長
(代理)波戸親志	営漁指導課長

(敬称略 50 音順)

(行政関係者)

森田 安雄	水産庁九州漁業調整事務所振興課長
工藤 啓	国土交通省九州地方整備局河川部河川調査官
飯牟禮 信幸	国土交通省九州地方整備局港湾空港部海域環境・海岸課長
(代理)今林章二	課長補佐
久保 一昭	海上保安庁第十管区海上保安本部水路部水路課長
本山 茂夫	気象庁長崎海洋气象台業務課長
中島 一見	国土交通省八代工事事務所長
塚原 健一	国土交通省川辺川工事事務所長
今永 繁	国土交通省熊本港湾空港工事事務所長
矢澤 吉邦	熊本県環境生活部環境保全課長
望月 一範	熊本県企画開発部地域政策課長
上田 史朗	熊本県土木部河川課長
板崎 清	熊本県林務水産部水産振興課長
伊勢田 弘志	熊本県水産研究センター所長
前田 和宏	鹿児島県水産試験場長
(代理)福留己樹夫	生物部長

(敬称略順不同)

#### 【4】配付資料

議事次第

資料－1 出席者名簿

資料－2 配席表

資料－3 第1回八代海域調査委員会議事要旨

資料－4 第2回八代海域調査委員会資料

資料－5 第2回八代海域調査委員会参考資料

## 【5】議事次第

1. 開会
2. 議事
  - 1)今後の調査方針について
  - 2)八代海およびその流域環境の現状と変遷について
  - 3)平成 13 年度調査計画について
    - (1)平成 13 年度現地調査計画(案)
    - (2)梅雨期の調査結果速報
    - (3)現況負荷収支の把握等
3. 閉会

## 【6】議事要旨

1. 今後の調査方針について  
事務局説明(省略)

(議論の結果)

全委員の了承を得る。

(議論の要旨)

- 現状の環境負荷収支を客観的に把握するためのモデルを作成し、この中で川辺川ダムと八代海域環境との関係確認も行う。
- 海域の環境変化要因として、各種海岸工事や養浜等による影響も整理する必要がある。

2. 八代海およびその流域環境の現状と変遷について  
事務局説明(省略)

(議論の結果)

本日の委員会における意見を踏まえ関係行政機関や漁協のデータ等も追加して内容を充実させる。

特に、赤潮発生に関連し、既設ダムの放流量等も含め関連するデータの整理を行う。

(議論の要旨)

1) 今後のデータのとりまとめ手法に対する意見等について

- 今後の対策として栄養塩類の総量規制などを考える上でも、栄養塩類のこれまでの推移を把握しておく必要がある。
- 八代海域での浚渫も考慮した土砂収支について整理することも重要なポイントと考えられる。
- 赤潮の発生については栄養塩類の増減だけでなく、閉鎖性海域である八代海域と外海との海水交換による状況を物理化学的に整理する必要がある。
- 赤潮の発生については、流域から流れ込むいろいろな要素によって底質が変化することが原因ではないかと懸念しており、底質調査を実施して欲しい。
- 珪藻類と鞭毛藻類及び動物性プランクトンによる赤潮は、発生要因が異なるので分けて整理してほしい。
- 赤潮の発生に関しては、栄養塩類の他に気象状況等についても調査を行う必要がある。
- 赤潮発生と既設ダムの放流量の関係を整理する必要がある。
- 赤潮の発生に関しては、潮流の影響を大きく受けていると思われるため、因果関係を調査する必要がある。

2) 既存データの取り扱いに対する意見等について

- 漁業被害のある赤潮以外については、あまり興味がない。
- 荒瀬ダム等の既設ダムの放流影響により、富栄養化した水が流れ込み赤潮が発生するのではないかと不安を持っている。
- 赤潮の関連として、養殖場付近の底泥からの内部生産等も考えられる。
- 調査データを見て海域の水温及び漁獲量の推移に対し、実感と大きく隔たりを感じる。
- 海域水温上昇等の自然現象に関連する長期的な変動要因とダム放流などの瞬間的な変動要因については 分けて考えた方が良い。
- 水温変化については今後データ整理と漁協へのヒアリングを併用して整理する。
- 漁獲量は放流事業によって横ばい状況を保っているが、実質的には低下している。

### 3. 平成13年度現地調査計画について

#### 1) 平成13年度調査計画(案)

事務局説明(省略)

(議論の結果)

基本的に了承される。ただし、委員より追加要望のあった事項については、予算などの制約もあるので再度事務局で検討する。

(議論の要旨)

- 梅雨期以外にも土砂流出量の調査を行ってほしい。
- 漁業に影響を与えている可能性もあるので、底質のTBTも分析してほしい。

また農薬などの分析もしてほしい。

- 現地調査データの解析にあたっては、気象や波浪等のデータも整理する。

#### 2) 梅雨期の調査結果速報について

事務局説明(省略)

(議論の結果)

事務局説明について特段の意見はない。  
事前に資料がほしい。

#### 3) 現況負荷収支の把握等

事務局説明(省略)

(議論の結果)

現況の負荷収支の把握並びに川辺川ダムと八代海域環境との関係を確認する上では、今回のボックスモデルを採用する。

(議論の要旨)

- ①モデル作成にあたっての意見等について

- 今回のモデルを作成する上で、給餌養殖だけでなく八代海で漁獲される全ての魚貝類を考慮すべきである。
- 球磨川だけでなく他河川の状況も反映されるようモデルを作成した方が良い。
- 川辺川ダムによる水温変化については、熱輸送という観点で海域との境界条件で温度変化を検討しモデルに反映すべきである。
- シミュレーションの適用範囲を明確にしておくべきである。

#### ②その他の意見等について

- 海域への河川水の拡散という観点で、市房ダムの洪水調節の状況を調査して欲しい。

#### 4. その他

- 第3回委員会は8月から9月初旬に開催する。
- 今回の質疑応答の内容は、発言者を特定しない形で議事要旨としてまとめたものを委員長が確認したうえでホームページにて公表する。